



第5回世界水フォーラム結果報告

5th World Water Forum - Bridging Divides for Water

国土交通省下水道部

(1) 世界水フォーラムとは

「世界水フォーラム」は、世界の重大な水問題を討議するための機会として開催されるもので、3年に一度、3月22日の「世界水の日」と同じ時期に開くことが世界水会議*によって採択されたもの。

* 世界水会議(World Water Council : WWC)

1996年、国連教育科学文化機関(UNESCO)、世界銀行(WB)、国際水資源学会(IWRA)など、水に関する国際機関や国際学会等が中心となり、水に関わる国際政策の検討会を行うシンクタンクとして設立されたもの

(2) 経緯

- 第1回 1997年 モロッコ・マラケシュで開催
- 第2回 2000年 オランダ・ハーグで開催
- 第3回 2003年 京都・滋賀・大阪で開催
- 第4回 2006年 メキシコ・メキシコシティで開催

(3) 第5回世界水フォーラムの概要

日時 : 2009年3月16～22日

場所 : トルコ イスタンブール

課題	テーマ	トピック
持続可能な発展のための水供給	1.地球規模の変化と危機管理	気候変動への適応
		人口移動と土地利用の変化、人間居住と水
		災害緩和
	2.人間の発展の促進とミレニアム開発目標	すべての人のための水、トイレと衛生の確保、適切なインフラの確保、短期的な公衆衛生の保全
		エネルギーのための水、水のためのエネルギー
		貧困と飢餓の撲滅のための水と食料
		水の多面的利用(例:水供給と灌漑)
	3.人間と環境のニーズに応えるための水資源と水供給システムの管理と保全	流域管理と越境水に関する協力
		農業、エネルギー、都市のニーズに応えるための適切な水資源と貯水施設の確保
自然の生態系の保全		
発展を可能とするメカニズム	4.ガバナンスと管理	改善されたアクセスのための水と衛生に対する権利の履行
		規制的なアプローチを通じたパフォーマンスの改善
		倫理、透明性とステークホルダーのエンパワーメント
		水事業における最適な官民の役割分担
		効率的で効果的な水管理のための制度
	5.資金調達	地域・地方の水事業者と制度に対する持続可能な資金調達の方法
		公平さと持続可能性を確保するための価格設定戦略
		貧困層のための政策と戦略
	6.教育、知識と能力開発	教育と能力開発戦略
		水科学と技術:21世紀のための適切で革新的な解決策
		水セクターの強化のための専門家のネットワークや学会の活用
		皆のための情報

(4) 下水道関係セッションの報告

①Session 2.1.4 "Keeping Sanitation High on the Agenda" 「衛生を主要課題に」 (3/19 14:30~16:30)

- 東京都下水道局石本係長から、水質汚濁問題を下水道を中心として解決した経験につき、技術、財政の両面の成功例として発表。
- 会場からは、東京都の下水道が、環境問題への関心の高まりなど下水道整備への大なる支持を背景に急速に普及したことなどに関心が寄せられた。



②Session 6.3.1 "How to Get to the MDGs with the Help of Professional Associations" 「いかに専門家組織の支援のもとでミレニアム開発目標を達成するか」 (3/20 8:30~13:00)

- *東京大学滝沢教授が、パネルディスカッションに登壇。
- ハード整備が中心であった日本の国際協力の中で、人材育成への協力を継続的に行うことが課題であったが、今年4月の下水道グローバルセンター(GCUS)の発足で、産官学の連携により人材育成を統一かつ継続的に行うことが可能となることを紹介。
- さらに、各国の専門家組織とネットワークを深めていくことで、MDGsの達成に貢献していくと強調。
- 会議の中で、滝沢教授の提案したGCUSの活動内容を支持する意見があったほか、会議終了後には、GCUSとの連携を図りたいとする国々から個別の接触があった。



③Session 6.3.3 "Should Investments Be Linked to Professional Associations' Backstopping?"
「専門家組織の支援に投資がなされるべきか」(3/21 8:30~10:30)

- *京都大学松井名誉教授がこれまでの日本の支援実績とその成果、今後の課題と取り組みについて発表。
- ODAについて、近年、我が国は水分野の最大のドナーであるとともに、**Capacity Building**でも多くの成功実績（タイの研修施設の設立など）を収めていることを紹介。
- 最近の取り組みとして、森元首相率いる水の安全保障機構の設立、チーム水日本の結成、その一員としてのGCUSの設立などを紹介。



- 我が国の支援実績が認められたとともに、GCUSにも多くの期待が寄せられた。

④Session 6.3.4 "The Road Less Travelled (No More?) Summing It All Up"
「これから何をなすべきか」セッションの総括
(3/21 11:00~13:00)

- 松井名誉教授が、開発途上国の支援策に対し、持続可能な資金調達や適切な人材の配置など専門家ネットワークの役割についてのパネルディスカッションに登壇。
- 「水・衛生問題の解決に向け、今後どのような行動をとるのか」との決意を問われ、改めて、「日本下水道協会として、GCUSを中心とした国際貢献活動を展開していく旨決意を述べた。
- さらに、2日間のセッションを通じて、GCUS活動の方向性が見え、自信が得られたと結論づけた。



- 議長（**Paul Reiter : IWA**）は、このセッションで大いなる成果が得られたとともに、今後とも会話を続け、協力を続けていくと締め括った。
- また、ここで得られた知見が広く発信されていくこととなった。

※松井名誉教授、滝沢教授、石本係長は「日本下水道協会」(JSWA)として出席。